

令和 4 年 6 月 22 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2016～2020

課題番号：16H01896

研究課題名（和文）南アジア農業・農村の新段階 土地・労働の流動化を軸としたダイナミズムの総合的研究

研究課題名（英文）The New Stage of South Asian Agriculture and Rural Economy: Integrated Study on the Dynamism of Mobility of Land and Labor

研究代表者

藤田 幸一（Fujita, Koichi）

京都大学・東南アジア地域研究研究所・教授

研究者番号：80272441

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 34,500,000円

研究成果の概要（和文）：インドおよびバングラデシュの農村で近年、経済発展に伴う農村からの労働力流出により、土地貸借市場が発展し、その結果、農村構造がドラスティックに変化していることを、現地調査に基づき詳細に明らかにした。土地貸借市場の発展は、特にインドのパンジャブ州・マハラシュトラ州とバングラデシュにおいて顕著にみられた。インドのその他州では土地貸借市場の発展は潜在的なものにとどまっていたが、グジャラート州ではその前段階の動きが観察され、将来の貸借市場の発展を予期させるなど、各地域の特徴に応じた諸事情があることが判明し、それぞれに固有の農村構造変化が起こっていることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

インドやバングラデシュの農村は長い間、土地保有と耕作を基盤にした社会経済関係に支配されてきたが、近年の経済発展とそれに伴う労働移動、特に海外出稼ぎや移住が、伝統的な農村構造の抜本的変革をもたらしつつある。構造変革が端的な形で進行しているのがインドのパンジャブ州であり、2つの調査村の詳細な実態解明により、本研究が明らかにした点は画期的成果といえる。バングラデシュでの土地貸借市場拡大の解明も先駆的成果である。以上、インドのその他州における成果をあわせ、本研究は、地域の諸事情に応じて少しずつ異なる形をとるとはいえ、今後南アジアで生起する事態を基本的なところで予見する重要な達成といえることができる。

研究成果の概要（英文）：Based on detailed household-level surveys and fieldwork, the research project clarified that the recent rural India and Bangladesh have experienced remarkable development of land lease market due to the labor migration to urban areas and abroad, resulting in drastic changes in agrarian structure. The land lease market development was particularly observed in Punjab and Maharashtra in India and Bangladesh. In the other states of India, the land lease market development remained a potential movement because of the various location-specific factors. In Gujarat, for instance, there observed a drastic change in agrarian structure, which is expected to induce the land lease market development in the future.

研究分野：農業経済学

キーワード：土地貸借市場 農村構造変化 南アジア 海外出稼ぎ・移住

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

インドやバングラデシュの農村は長い間、土地の独占的保有とそこでの雇用労働依存型の農業経営を基盤にした上下格差の大きい社会経済関係に支配されてきた。しかし、近年の経済発展とそれに伴う労働移動、特に海外出稼ぎや移住が、伝統的な農村構造 (agrarian structure) の抜本の変革をもたらしつつある。農村構造の変化は、主に土地の流動化 (貸借市場の発展) という形をとり、しばしば下層民による借地農業の展開という注目すべき事態に発展している。

### 2. 研究の目的

インドやバングラデシュにおける伝統的な農村構造の変化は、著しい地域差を伴っていると予想される。ヒンドゥー教 (およびシーク教) とイスラム教の違い、また前者の中でも、農村支配カーストの歴史的性格や非農業就業への移行の様態などによって、地域それぞれの展開があるものと予想される。したがって、特にインドでは、主要な地域を幅広く取り上げ、農村構造の変化を詳細に検討する必要がある。本研究では、インドのパンジャブ州、グジャラート州、マハラシュトラ州、タミルナドゥ州、ビハール州、オディシャ州を取り上げ、またバングラデシュも加えて、課題を追究した。そしてそれらを統一的な視点でとりまとめ、南アジアにおいて現在進行形で起こっている農村の大きな社会経済変動の実相とその特徴、意義などを明らかにする。

### 3. 研究の方法

農村構造変動を明らかにするという事の性格上、少数の事例ではあっても、村の全世帯の悉皆調査を行い、それをベースに分析・考察するという方法が望ましいと判断し、バングラデシュやインド各州で、少数の村をサンプリングし、可能な限り、全世帯を対象とする調査を行った上で、質的な情報収集に努める、という方法論を採用した。

### 4. 研究成果

#### 1) パンジャブ州

本研究最大の成果は、インド・パンジャブ州の調査研究から得られた。同州農村の支配カーストのジャット (Jat) は、土地の男子均分相続の下、土地保有規模は時代とともに縮小の一途をたどる。加えて1990年代半ばのインド経済の「農業調整問題」への移行が単位面積当たり農業所得の停滞と相対的低下をもたらす。ジャットが就く非農業職は軍や警察、自営の運輸部門に限定され、ジャットは一般に (相対的な) 困窮化を経験した。そういう中で、徐々に発展をみたのが土地貸借市場である。ジャットの一部が借地により経営規模を拡大し、残りはさまざまな非農業職に就くという動きである。ただし、国内非農業職に限りがある中、欧米先進国への出稼ぎ・移住が最も有望な選択肢であった。欧米先進国への移住が進んだ地域では、彼らが土地貸借市場における主な貸し手となり、地代は比較的安く決まった。それが借地で規模拡大をする一部ジャットの所得を高位安定化するように働いた。しかし、欧米先進国への移住があまり進展しない地域もあった。そこでは土地貸借市場への土地の供給量が限られ、他方で借りたいジャット農民の数は多く、その結果、地代は非常に高い水準に決まった (粗生産額の50~60%)。その帰結は主に2つであり、1つは借地によって規模拡大した一部ジャット農民の所得は伸び悩み、困窮化の趨勢を止めるのに失敗したこと、もう1つは、村内に高い地代所得に依存してまともな就業をしない「地代生活者」をかなり大量に生んだことである。それは、若者の薬物依存という深刻な社会問題をも引き起こした。以上の成果は、ジャランダー州とルディアナ州からサンプリングした2つの農村の詳細な調査から明らかになったもので、前者が海外移住の盛んな地域、後者がそうでない地域である。ジャランダー州は、以前からイギリス植民地軍への入隊を通じて海外経験者が多く、それが海外移住を盛んにした歴史的要因である。問題は、パンジャブ州全体からするとジャランダー州の事例はむしろ例外的であり、多くの地域では、高地代による借地農業の低収益性、および地代生活者の滞留という、不健全かつ将来性のない発展方向をたどっていると思われる点である。下記2本の論文が *Economic and Political Weekly* 誌への掲載が決まっている。ただし1本は、採択通知があつてから半年以上経過するが、いつ掲載になるか不明である。

Ohno, A., K. Fujita, and K. Vatta, "Agrarian Structure of Punjab in the Post-green Revolution Era: Household Strategies for Distress Coping", *Economic and Political Weekly*, Vol. 56, No.40, October 2, 2021, pp. 56-64.

Fujita, K., A. Ohno, and K. Vatta, "Contrasted Agrarian Change in Punjab, India: Case Study of Two Villages from Ludhiana and Jalandar District", accepted by *Economic and Political Weekly*.

#### 2) バングラデシュ

土地貸借市場の拡大が明瞭に確認されたもう1つの例はバングラデシュである。データは、研究代表者の藤田がボグラ州とタンガイル州の2カ村で、1992年と2009年の2時点で収集した世帯悉皆調査データである。2009年収集データの整理は不十分であり、本研究で改めて整理・

分析を行った。バングラデシュの経済統計の分析によると、2000年代後半頃から農業実質賃金が顕著に上昇した。近年のバングラデシュ統計局の家計所得支出調査の個票データ分析に基づき、農村では土地貸借市場が拡大し、主な借り手は土地なしや機能的土地なし世帯（0.5エーカー未満の土地保有層）であったとする先駆的研究がある。そういう中で、本研究では、1992年と2009年の比較という方法で、2カ村の土地貸借市場の拡大およびその詳細や意義を明らかにする作業を行った。ボグラ県A村では非農業部門の発展が欠如した状況下で農業集約化が著しく進展したのに対し、タンガイル県DC村では、農業発展は限定的ながら、非農業部門への就業シフトが顕著に進んだという意味で対照的であった。土地貸借市場拡大は、両村共通に観察されたが、その内実は異なるものであった。ボグラ県では比較的若い世代が積極的に借地をし、菅井戸やトラクターへの投資にも積極的で、「借地農」と規定できる階層の台頭が明瞭だったのに対し、タンガイル県DC村では借地は農業従事世帯の所得補填の意義が強く、伝統的な「小作農」が増加するという動きであった。土地貸借市場拡大についての上記先駆的研究と比較して、本研究は、2カ村の事例に限定されるとはいえ、実態の詳細な分析・検討を行ったという意味で画期的成果であった。今後、土地貸借市場の拡大を焦点にした農村構造変容に関する研究を誘発することが期待される。また、調査2カ村では伝統的刈分小作が維持されていたが、今後の研究では、小作制度変容とその条件（定額小作では地代率が低下し、小作人の経済厚生改善が期待できる）の解明が1つの焦点となろう。本研究の成果は、日本語と英語で刊行済みである（ただし、英文のものは今後ジャーナル論文として発表し、海外に広く流通させる予定）。

藤田幸一「バングラデシュにおける近年の土地貸借市場の拡大—ボグラ県とタンガイル県の2つの村の事例を中心に」『南アジア研究』31巻、2019年、6~46ページ。

Fujita, K., “Development of Land-lease Market and Agrarian Change in Bangladesh: Evidence from Two Villages with Different Degrees of Development in Non-farm Sectors”, In Fujita, K. ed., *New Stage of South Asian Agriculture and Rural Economy: Integrated Study on the Dynamism of Mobility in Land and Labor*, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 2021, pp. 138-158.

### 3) マハーラーシュトラ州

インド・マハーラーシュトラ州は、ムンバイやプネーなどインド有数の商工業都市を擁し、1人当たり所得も高いが、半乾燥地帯にあるため、農村では森林資源が枯渇し、農地が荒れ、人びとは都市へ出稼ぎに出る事態が進行していた。そうした動きを止め、地下水涵養を図り、農地の回復を目的としたプロジェクトが流域管理（watershed management）である。同プロジェクトは一般に河川流域上流部で行われ、よってインドでは部族民（tribe）の主な居住域である。本研究では、プネーに本部を置く環境NGOであるWOTR（Watershed Organisation Trust）と連携し、そのプロジェクト村の1つで調査を実施した。同村は、2018年には203世帯のうち、部族民が47.8%、支配カーストのマラーターが38.9%、その他が13.3%を占めた。多くのマラーター世帯はムンバイやプネーに出稼ぎに行くと同時に、一部の世帯は指導的農民として村にとどまり、換金作物を積極的に導入していた。同村は河川上流部の渓谷沿いにあり、農地は痩せ、土地貸借市場が発展する余地はあまりない。しかし村から数キロ離れた幹線道路沿いの隣村（G村）では近年、農業労働賃金が高騰し、農民は自営のビジネスを含む非農業就業に忙しく、土地を借地に出す誘因が強まっていた。その要請に応じたのが調査村の部族民世帯である。彼らは農業労働者としてG村の農民に雇われ、換金作物の栽培や販売に慣れた後、その実績を買われて小作農民となった。そしてその後、その経験を生かし、出身村の自分の土地に井戸を設置し、トウジンビエなど自給的作物に加え、タマネギなど換金作物の栽培を始めるなど、画期的な活動を開始した。ただし、問題がないわけではない。部族民は一般にリスクに対する耐性が弱く、価格変動の激しい換金作物の価格が下落すると、途端に意気消沈し、栽培をやめてしまうという事態が生じた。すなわち、ハイリスク・ハイリターン換金作物栽培への耐性をつけることが、部族民の市場経済への適応のためには不可欠という課題が残っている。

藤田幸一・Yogesh Shinde・Ramkumar Bendapudi・加治佐敬「インド農村部の経済発展と部族民社会—マハーラーシュトラ州—調査村の事例より」『Aoyama Journal of International Studies』第7号、2020年、1~23ページ。

Fujita, K., Y. Shinde, R. Bendapudi, and K. Kajisa, “Rural Economic Development and Tribal Society in India: Case Study of a Village in Ahmednagar, Maharashtra”, In Fujita, K. ed., *New Stage of South Asian Agriculture and Rural Economy: Integrated Study on the Dynamism of Mobility in Land and Labor*, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 2021, pp. 68-88.

### 4) グジャラート州

研究分担者の岡通太郎はこれまで、インド有数の工業地域であるグジャラート州の農村において、債務奴隷的な農業労働制度が、逆説的に執拗に残っている実態とその要因を明らかにし、同時に、伝統的制度が強く残る中部グジャラートとそうではない半島部の対照性も明らかにしてきた。本研究における中部および半島部グジャラート農村での再調査結果は以下の通りである。中部グジャラートでは、土地貸借市場の発展は認められなかったが、支配カーストのパティダール（Patidar）の支配力は依然として残るものの、伝統的制度の弛緩を示唆する以下の3つの動き、1)タバコからバナナなど、より労働節約的な作物への作付転換、2)タバコから野菜など、労働集約的であるが、それが高い経済収益性によって報われる作物への転換、3)作物栽培に家

畜飼育を組み合わせた、より家族労働使用的な混合農業への転換、が観察された。また半島部では、支配カーストのラージプートは、下位階層のコーリー・コミュニティとの間で、以前にはなかった借地契約（ただし収穫の75%を地主のラージプートが取る刈分け制度）を広範に結んでおり、その意味で伝統的な農村構造がかなり抜本的な変化を遂げていることが解明された。研究成果は、学会報告のほか、下記の英語論文（報告書）として発表済みである。

Oka, M., “Agrarian Structure and Its Transformation: Comparison of Central and peninsular Gujarat”, In Fujita, K. ed., *New Stage of South Asian Agriculture and Rural Economy: Integrated Study on the Dynamism of Mobility in Land and Labor*, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 2021, pp. 59-67.

#### 5) インドのその他の州

オディシャ州では、研究分担者・田辺明生の以前からの調査村において再調査を実施し、その結果、部族民の Saora の間で、顕著な借地の動きがあることが観察された。

Tanabe, A. and K. Fujita, “Transformation of the Socio-economic Structure in a Village Society in Odisha”, Fujita, K. ed., *New Stage of South Asian Agriculture and Rural Economy: Integrated Study on the Dynamism of Mobility in Land and Labor*, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 2021, pp. 89-123.

ビハール州では顕著な土地貸借市場の拡大の動きは観察されず、研究分担者の辻田祐子の研究成果は、主に労働移動に関するものである。

Tsujita, Y., “Labor Migration in Two Villages in Rural Bihar”, INDAS Working Paper No.25, 2019, pp.1-23.

最後に、タミルナードゥはインド有数の工業発展州であるが、農村では水稻作を行うには限界的な環境条件で、加えて近年の灌漑用ため池（tank）の機能不全により、土地貸借市場の発展は限定的にとどまったことが判明した。

#### 6) 結語

本研究の主な問題関心は、土地貸借市場の発展によって、農村支配層の交代があるや否や、であった。その意味で、カースト的制約から最も自由なバングラデシュで、最も典型的に土地貸借市場発展による農村構造の変化が見られたのは予想通りであった。パンジャブ州の事例は、土地貸借市場の発展という意味ではよりドラスティックであったが、貸借の相手が同じジャットに概ね限定されていた。それに対し、マハーラーシュトラ州の事例は、従来、土地所有からかなりの程度排除されてきた部族民による借地の動きを捕捉したものであり、将来起こるであろう事態の先取りとして位置づけられるかも知れない。今後の動向で興味深いのはグジャラート州である。農村の支配カースト・パティダールは、パンジャブ州のジャットと並んで、伝統的なインドの農業カーストの代表例である。近年の土地貸借市場の発展という経済的なロジックに対し、パティダールが今後、どういう運命を切り拓くかは、1つの重大な関心事といえよう。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計27件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 7件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 Akihiko Ohno, Koichi Fujita, and Kamal Vatta	4. 巻 Number 20
2. 論文標題 Structural Transformation of an Agrarian Society: Case Studies from Punjab, India	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 INDAS Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Michitaro Oka	4. 巻 Number 21
2. 論文標題 Agrarian Transformation in Central Gujarat from 2003-18: Cropping Patterns, Land tenancy, and Labor Patronage	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 INDAS Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Koichi Fujita, Yogesh Shinde, and Ramkumar Bendapudi	4. 巻 Number 22
2. 論文標題 Land, Labor, and Agricultural Innovations in a Semi-arid Region of Maharashtra, India: The Case of Bhojdari Village	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 INDAS Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Takahiro Sato	4. 巻 Number 23
2. 論文標題 Factors Affecting Inactive Land Transactions in a Semi-arid Area: Case of Tank-irrigated Village in Tamil Nadu	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 INDAS Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kazuya Wada	4. 巻 Number 24
2. 論文標題 Landholdings, Occupation, and Investments in Education in Rural India: A Field Survey in Appadurai Village, Tiruchirappalli District, Tamil Nadu	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 INDAS Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuko Tsujita	4. 巻 Number 25
2. 論文標題 Labor Migration from Two Villages in Rural Bihar	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 INDAS Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hisaya Oda, Yuko Ysujita, and Irudaya Rajan	4. 巻 19-3
2. 論文標題 An Analysis of Factors Influencing the International Migration of Indian Nurses	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of International Migration and Integration	6. 最初と最後の頁 607-624
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yoshifumi Usami, Subhajit Patra, and Abhinav Kapoor	4. 巻 8-2
2. 論文標題 Measuring Female Work Participation in Rural India: What Do the Primary and Secondary Data Show?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Review of Agrarian Studies	6. 最初と最後の頁 3-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Akio Tanabe	4. 巻 1
2. 論文標題 Spirituality as the Source of Human Creativity: Insights from india	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Kyoto Manifesto for glabal Economics: The Platform of Community, Humanity, and Spirituality	6. 最初と最後の頁 179-193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kei Kajisa	4. 巻 1
2. 論文標題 Role of Community and Government in Irrigation Management in Emerging States: Lessons from Japan, China, and India	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Paths to the Emerging State in Asia and Africa	6. 最初と最後の頁 23-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 草野 拓司	4. 巻 84
2. 論文標題 インドにおける農業政策の動向と方向性 公的分配システムを事例に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 農林水産政策研究所レビュー	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田辺 明生	4. 巻 83
2. 論文標題 インド・オリッサ州におけるトライブとダリット マイノリティ集団間関係を考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 マイノリティ研究会ニュース	6. 最初と最後の頁 24-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田辺 明生	4. 巻 1
2. 論文標題 幸福追求の支えとしてのダルマ 秩序の再構築過程に注目して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 変貌と伝統の現代インド アンベードカルと再定義されるダルマ	6. 最初と最後の頁 255-276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mineo Takada	4. 巻 40-2
2. 論文標題 Burma as 'Corridor': A Case of South Asian Decendants' Community in Northern Thailand	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Shudo Hogaku (Shudo Law Review)	6. 最初と最後の頁 113-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Das, A. and Y. Usami	4. 巻 7-2
2. 論文標題 Wage Rates in Rural India, 1998-99 to 2016-17	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Review of Agrarian Studies	6. 最初と最後の頁 4-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Rahman, M.S., M.A.S. Mandal, K. Kajisa and H. Bhandari	4. 巻 31-5
2. 論文標題 Farm Size and Productivity in Rice Farming: Recent Empirical Evidence from Bangladesh	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Bangladesh Journal of Political Economy	6. 最初と最後の頁 51-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する



1. 著者名 藤田幸一	4. 巻 77-8
2. 論文標題 インドの経済史を振り返る イギリス植民地時代から現代まで	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 運輸と経済	6. 最初と最後の頁 167-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 草野拓司	4. 巻 40-2
2. 論文標題 インドにおける食料安全保障法下での公的分配システムの方向性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際農業協力	6. 最初と最後の頁 42-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 草野拓司	4. 巻 84
2. 論文標題 インドの農業政策 モディ政権が目指すPDS改革の報告性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 農業と経済	6. 最初と最後の頁 132-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kajisa, K. and Dong, B.	4. 巻 31
2. 論文標題 The Effect of Volumetric pricing Policy on Farmers' Water Management Institutions and Their Water Use: The Case of Water User Organization in an Irrigation System in Hubei, China	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 World Bank Economic Review	6. 最初と最後の頁 220-240
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kurosaki, T. and Y. Usami	4. 巻 6
2. 論文標題 A Note on the reliability of Agricultural Wage Data in India: Reconciliation of Monthly AWI Data for District-level Analysis	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Review of Agrarian Studies	6. 最初と最後の頁 6-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Usami, Y.	4. 巻 None
2. 論文標題 A Note on Sericulture in Karnataka	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Socio-Economic Survey of Three Villages in Karnataka (Swaminathan, M. and A. Das ed.)	6. 最初と最後の頁 31-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanabe, A.	4. 巻 None
2. 論文標題 Vernacular Democracy and Politics of Relationships: A Subalternate Perspective on Contemporary India	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Rethinking religion, Ethics, and Political Economy in India and Sri Lanka: Critical Perspectives from Japan	6. 最初と最後の頁 39-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田辺明生	4. 巻 218
2. 論文標題 日印交流の未来 言語文化の多様性と普遍性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 文学・語学	6. 最初と最後の頁 45-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田辺明生	4. 巻 None
2. 論文標題 多様性の公共的表現としての多面的デモクラシー ポピュラー・ポリティクスについて日本がインドから学べること	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アリーナ	6. 最初と最後の頁 150-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田辺明生	4. 巻 None
2. 論文標題 宗教性からみたインド 存在の平等性にもとづく多様性の肯定	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『宗教とこころの新時代』(大澤真幸編)	6. 最初と最後の頁 91-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 草野拓司	4. 巻 74
2. 論文標題 インドの主要農産物をめぐる諸問題と価格支持政策の関係 コメ・小麦および砂糖について	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 農林水産政策研究所レビュー	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件(うち招待講演 3件/うち国際学会 16件)

1. 発表者名 Kazuya Wada
2. 発表標題 Changes in Landholdings and Household Welfare in Rural India
3. 学会等名 Seminar on Assessing Citizen Participation and Voices in the Era of Democratic Decentralization in Indian States (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshifumi Usami, Subhajit Patra, and Abhinav Kapoor
2. 発表標題 Measuring Female Work Participation in Rural India: What primary and Secondary data Tell?
3. 学会等名 Conference on Women's Work in Rural Economics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuko Tsujita
2. 発表標題 De-skilling of Foreign-trained Nurses at a Destination
3. 学会等名 AAS in Asia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 辻田 裕子
2. 発表標題 外国人看護師の非熟練化：シンガポールにおけるインド人看護師の事例
3. 学会等名 日本南アジア学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田 幸一・大野 昭彦
2. 発表標題 インド・バンジャール州農業構造の変容と新たな農村階層構造の出現
3. 学会等名 日本南アジア学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 和田 一哉
2. 発表標題 土地所有、教育投資、貧困削減： インドの家計データを用いた実証分析
3. 学会等名 2018年度アジア政経学会秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 和田 一哉
2. 発表標題 経済発展、教育、女性のエンパワーメント
3. 学会等名 日本南アジア学会30周年記念連続シンポジウム第4回
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高田 峰夫
2. 発表標題 原忠彦先生の研究を最初のバングラデシュ調査から考える
3. 学会等名 シンポジウム「50年後に振り返るベンガルの農村社会」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田 幸一
2. 発表標題 バングラデシュ農業・農村開発の社会的基盤 故原忠彦教授の議論に寄せて
3. 学会等名 シンポジウム「50年後に振り返るベンガルの農村社会」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高田 峰夫
2. 発表標題 自称と他称の間： 'Rohingya' と 'Bangalee' をめぐって
3. 学会等名 東南アジア学会北海道・東北地区特別例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田辺 明生
2. 発表標題 インド文明とアフロユーラシア エジプトとの比較
3. 学会等名 講演会「エジプトと環ユーラシア文明」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田辺 明生
2. 発表標題 多様性社会としてのインド 南アジア型発展径路を考える
3. 学会等名 シンポジウム「インドの価値観と社会構造 日本と西洋との比較研究」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田辺 明生
2. 発表標題 インド史への視座 多様性の統合
3. 学会等名 川崎市民アカデミー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akio Tanabe
2. 発表標題 Democracy and Development in tension: Predicament of Politico-economic Stalemate among the Dongria Khods in Odhisha, India
3. 学会等名 International Workshop "Rethinking Development: Network, Brokers and Devotion" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sato, T., A.B. Gaiballa, and S.A. Abdelgader
2. 発表標題 Economic Use of Prosopis juliflora in South India and East Sudan
3. 学会等名 The 3rd International Conference on Arid land Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tanabe, A.
2. 発表標題 Is there a South Asian Path of Development? Comparative Attempts on Shapes of Asia
3. 学会等名 International Seminar on Race and Racism (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tanabe, A.
2. 発表標題 Forms of Racialization in Odisha, India: Projecting Anxieties of Globalization onto the Marginalized
3. 学会等名 116th Annual Meeting of American Anthropological Association (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Usami, Y. and A. Das
2. 発表標題 Recent Trend of Agricultural Wages in India
3. 学会等名 Sam Mayo Memorial Conference on land and labour Questions in the Global South (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Vikas, R., Y. Usami and Vaishali
2. 発表標題 The Incidence of Tenancy in India
3. 学会等名 Sam Mayo Memorial Conference on land and labour Questions in the Global South (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takada, M.
2. 発表標題 A Bangladeshi Decendent Muslim Community in Northern Thailand: The Process of its Formation
3. 学会等名 The 1st Asian Consortium for South Asian Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高田峰夫
2. 発表標題 2016年10月9日事件とロヒンギャ バングラデシュからの見方
3. 学会等名 第97回東南アジア学会大会
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 Kajisa, K.
2. 発表標題 Irrigation Policies under Rapid Industrialization and Labor Migration: Lessons from Japan, China and India
3. 学会等名 Asian Society of Agricultural Economics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Oda, H. and Y. Tsujita
2. 発表標題 Unguaranteed Public Employment Guarantee Scheme in Bihar, India
3. 学会等名 日本南アジア学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤田幸一
2. 発表標題 バングラデシュ農業の新しい動き 借地農業の発達と新農業経営層
3. 学会等名 日本南アジア学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Sato, T.
2. 発表標題 Overview of Food-Water-Energy Nexus in India: With Special Reference to Punjab and Tamil Nadu
3. 学会等名 The 8th INDAS International Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Fujita, K.
2. 発表標題 Agricultural Stagnation in Bihar Revisited: Agro-ecological Conditions, Groundwater Irrigation, and Government Policies
3. 学会等名 The 8th INDAS International Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Usami, Y.
2. 発表標題 Data on Migration from the Population Census and NSSO Migration Survey
3. 学会等名 Research Methodology Workshop on "Using Large-Scale Data" (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Usami, Y.
2. 発表標題 Use of Age-cohort Analysis to Study Dynamics of Changes in the Structure of Employment
3. 学会等名 Research Methodology Workshop on "Using Large-Scale Data" (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tanabe, A.
2. 発表標題 Various Forms of Money-use in Early Modern India: Money that Connects Diversities in Market, Society and Polity
3. 学会等名 The variety of Exchange and the Character of Money (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Wada, K.
2. 発表標題 What is "Participation" for Development? Economic Evidence from India
3. 学会等名 日本南アジア学会九州支部
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 和田一哉
2. 発表標題 開発のための参加とは？インドのマイクロデータを用いた実証分析
3. 学会等名 アジア政経学会秋季大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 高田峰夫
2. 発表標題 ビルマを越えて バングラデシュとタイの歴史的なつながり
3. 学会等名 日本南アジア学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 Vaishali Bansal, Yoshifumi Usami, and Vikas Rawal	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Society for Social and Economic Research	5. 総ページ数 206
3. 書名 Agricultural Tenancy in Contemporary India: An Analytical Report and A Compendium of Statistical Tables based on NSSO Survey of Land and Livestock Holdings	

1. 著者名 Yoshifumi Usami and Vikas Rawal	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Society for Social and Economic Research	5. 総ページ数 34
3. 書名 Changes in the Structure of Employment in India: A Study Using Age-Cohort Analysis of NSS Data for 2004-05 and 2011-12	

1. 著者名 Yuko Tsujita	4. 発行年 2018年
2. 出版社 IDE-JETRO (Bangkok Research Center)	5. 総ページ数 91
3. 書名 Human Resource Development, Employment, and Mobility of Healthcare Professionals in Southeast Asia: The Case of Nurses	

1. 著者名 藤田幸一・大石高志・小茄子川歩	4. 発行年 2019年
2. 出版社 南アジア地域研究プロジェクト京都大学中心拠点・研究グループ 1	5. 総ページ数 109
3. 書名 南アジアの人口・資源・環境 生態環境要因を重視した南アジアの長期発展経路解明のための中間報告	

1. 著者名 Mio, M., K. Fijita, K. Tomozawa and T. Awaya	4. 発行年 2017年
2. 出版社 National Museum of Ethnology	5. 総ページ数 220
3. 書名 Structural transformation in Globalizing South Asia: Comparative Area Studies for Sustainable, Inclusive, and Peaceful Development	

1. 著者名 大橋正明ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 434
3. 書名 バングラデシュを知るための66章	

1. 著者名 インド文化事典編集委員会	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 770
3. 書名 インド文化事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大野 昭彦  (ohno Akihiko)  (20176960)	青山学院大学・国際政治経済学部・教授   (32601)	
研究分担者	田辺 明生  (Tanabe Akio)  (30262215)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授   (12601)	
研究分担者	中谷 純江  (Nakatani Sumie)  (30530034)	鹿児島大学・総合科学域総合教育学系・教授   (17701)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	加治佐 敬 (Kajisa Kei)  (50377131)	青山学院大学・国際政治経済学部・教授  (32601)	
研究分担者	辻田 祐子 (Tsujita Yuko)  (60466068)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・その他部局等・海外研究員  (82512)	
研究分担者	岡 通太郎 (Oka Michitaroo)  (70402823)	明治大学・農学部・専任講師  (32682)	
研究分担者	和田 一哉 (Wada Kazuya)  (70589259)	金沢大学・経済学経営学系・准教授  (13301)	
研究分担者	佐藤 孝宏 (Sato Takahiro)  (80444488)	弘前大学・農学生命科学部・准教授  (11101)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	高田 峰夫 (Takada Mineo)  (80258277)	広島修道大学・人文学部・教授  (35404)	
研究協力者	草野 拓司 (Kusano Takuji)  (70409473)	農林水産政策研究所・農業・農村領域・主任研究官  (82625)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Mid-term Workshop of Grant-in-Aid Project	開催年 2018年～2018年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------